

TGL 及び RBP の安全衛生教育について

1 これまでの検討状況

(1) 労働災害発生状況等について

① 令和2年の労働災害発生状況（第1回資料4-2 P26）

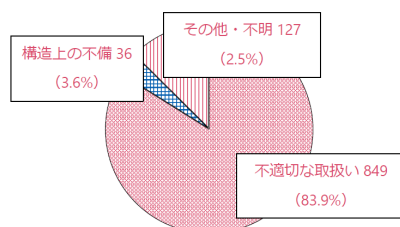
令和2年 労働災害発生状況

- RBP の「不適切な取扱い」※が約8割と最多

このうち

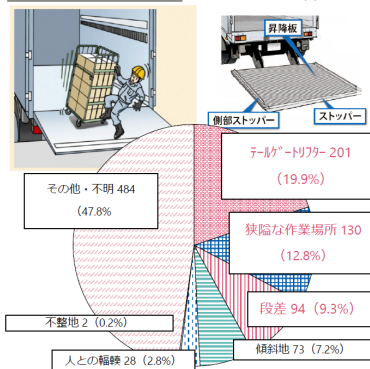
- 被災者の約2割が、経験年数10年以上
- 傷病性質の約5割が、休業1ヶ月以上の「骨折」

※荷役運搬用のロールボックスパレット（カゴ車）の取扱中の災害が多発し、このうち約8割が不適切な取扱が原因となっている。



令和2年 災害発生時の作業環境

- テールゲートリフター利用時が約2割と最多



出典：労働者死傷病報告

- ・ 陸上貨物運送事業においてRBP取扱い中に発生した休業4日以上の死傷災害(約1,000件)を分析したところ以下のとおり。
 - イ 約8割が「不適切な取扱い」が原因であった。
 - ロ 約2割がTGL利用時に発生している。

② 検討会実施アンケート結果

【安全衛生教育】TGL教育 75%（ただし、1時間以内の短時間が多い）
RBP教育 65%

③ TGL取扱いに関するアンケート調査（平成30年3月）分析 685件

労働安全衛生総合研究所・陸上貨物運送事業労働災害防止協会

- ・ 取扱説明書を読んでいる 308件
- ・ 取扱説明書を読んでいない 309件

④ 労働安全衛生総合研究所研究技術資料2015

- ・ 「ロールボックスパレット起因災害防止の手引き」

経験1年以下の被災が、43.2%、うち1か月以下だけで、8.2%

(2) 前回（第6回）検討会で出された御意見等

- RBPを起因とする災害を経験年数が1か月で8.2%であるが、細かく見ると多く

が1週間以下で被災していることから、RBPの取扱い業務は就業前に教育を行う制度が有効である。

- 安全衛生教育が作業手順書を見せるだけの場合も考えられるが、一定時間の実技を含むカリキュラムが示せば効果のある教育となる。
- 安全衛生教育後も一定の頻度で繰り返し教育を行うことも必要だろう。

2 検討課題

- 安全衛生教育の対象とする業務の具体的内容について。
- 安全衛生教育の法令上の位置付けについて。